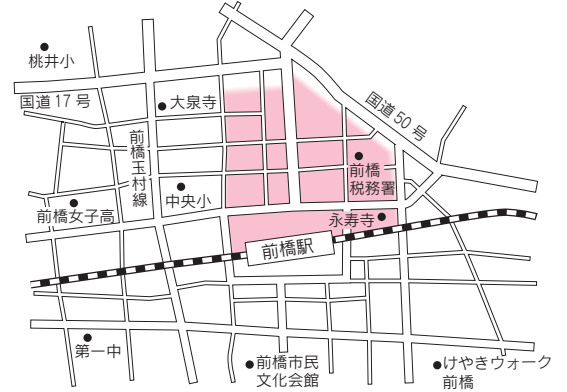


田中町

Tanaka-machi



昭和初期の前橋駅。馬車鉄道が当時をしのばせる
(出典：(株)国書刊行会「ふるさとの思い出」写真集 前橋)



おじいちゃん…今日は田中町に行ってみよう。
ク…なんて読むの？
おじいちゃん…「たなかまち」と呼ぶんだよ。
ボ…いつから、そしてなんでそういう町名になったの？
おじいちゃん…江戸期は前橋城下武家地で田中小路、南田中小路、多津塚といっていたんだよ。「幕末の前橋城再築後、田地を埋め立て邸宅とした所」というから、昔は田地だったよ。で、その田地の中という流れで田中という地名が生まれたのかな。また、前橋駅前通りは田中小路と呼んでいたんだよ。さらに、多津塚はこの土地にある永寿寺の境内で刀剣が出土したといわれたことから別名龍塚と呼ばれ古墳だったんだよ。そして、明治7年から、先日訪れた堀川町の砂堀の一部と田中小路、南田中小路、多津塚を合併して田中町となり昭和41年までそう呼ばれたんだよ。
ク…このまちはどこになるのかなあ。
おじいちゃん…前橋駅前通りを挟んで東西に家並みがある所で表町一丁目、二丁目界限だね。
ボ…当時の田中町の様子を見たいよ。
おじいちゃん…幕末頃、田中小路は道を挟んで東西に100石から200石前後の武家屋敷が並んでいたんだよ。その後、士族屋敷になつてからは、傘張り、提灯張り、団扇張りにいそいでいたそうだ。また、このまちな物は明治31年創建の歌舞伎座と築山をめぐる池と藤と菖蒲で有名だった天野園だね。藤の開花時には高崎や伊勢崎からも見物が多く来たようだけど、二つともなくなつてしまった。
ク…このまちは前橋駅があるね。
おじいちゃん…明治22年に両毛線が全線開通され、その時に前橋駅が誕生したんだ。開設にあたって、前橋停車場用地として士族の土地が売られ、線路工事の土盛りに龍塚の土が使われたといい、その堀跡に池が出来て養鯉池に

なったそうで、養鯉業者もかなりあったというよ。その後、駅舎は約40年の使用により改築の必要性が生じ昭和2年に前面改築が行われたんだ。この駅舎はモダンで市民に新しい時代の到来を感じさせたようだ。
ボ…駅舎はまた変わっているね。駅前広場や駅前通りはどうなっていたの？
おじいちゃん…両毛線は貨物路線も併設していたため、明治39年に前橋駅から渋川まで馬車鉄道が開通し、共進会の前年明治42年に電化、昭和29年まで市中を走っていたよ。また、大正8年に前橋駅から高崎駅まで乗合バスが運行するようになり、駅前には人力車が見られたよ。昭和40年に駅前広場に噴水が建設され当時関東最大の噴水は注目を集めたそう。バスの待合所であったのか広場には多くの人が見られたんだ。通り沿いには旅館や飲食店、運送業などが立ち並び賑わっていたんだ。昔は赤城山を遠景にして、正に前橋の表玄関だけのことがあったんだけど、今はビルが立ち並び、まったく見えな
ク…でも駅前通りのケヤキ並木は立派だね。
おじいちゃん…このケヤキは昭和24、25年に植えられたもので、戦災復興事業の一環だったんだ。その記念に建てられたのが、駅前広場にある「平和・建設」の像なんだ。
ク…現在、駅舎を始め、駅前広場は南も北も、すっかり整備されたけど、昔のほうが情緒あふれるまちだったような気がするよ。駅前通りは昔のような賑わいもなくオフイス街といった感じだし、赤城山も見えないね。でも、ケヤキは大きく成長し、緑の大きなトンネルになっているし、まちのシンボルだと思うから、これからもずっと残していきたいね。
おじいちゃん…そうだね。では、次回は前代田町・市之坪町に行ってみよう。

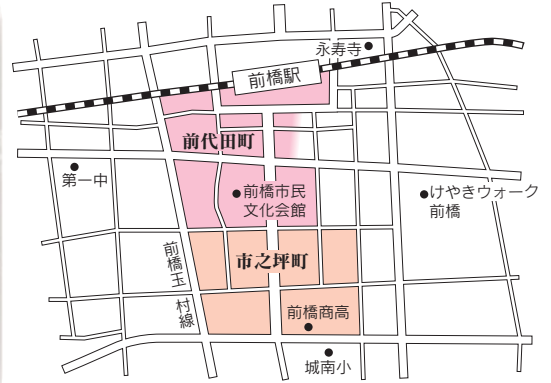


前代田町・市之坪町

Maeshirota-machi & Ichinotubo-machi



往時の名残りとして名称が生きている市之坪公園(上)と代田神社



おじいちゃん：今日は前代田町と市之坪町に行ってみよう。

ボク：なんて読むの？

おじいちゃん：「まえしろたまち、いちのつぼまち」と呼ぶんだよ。

ボク：いつから、そしてなんでそういう町名になったの？

おじいちゃん：江戸期から明治22年は前代田村、市之坪村、明治22年から昭和26年は前代田、市之坪という前橋市の大字名、昭和26年から昭和42年は前代田町、市之坪町と言っていたよ。前代田は、この辺一帯を代田の郷と称していたが、前橋城築城にあたり地区を南北に分けたため、南の地をこう指すようになったんだよ。ちなみに北は北代田町といい、現在も町名が残っているよ。市之坪は古代日本で実施された土地区画整理制度であった条里制の名残りである地名で、縦横6町の区画を1町ごとに区切って1×36坪とし、その最初に割り振られたのが「一の坪」であって、そこからこう呼ばれたんだよ。

ボク：だいぶ古くからずとある由来のある地名なんだね。このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん：先日訪ねた田中町にある前橋駅の南側一帯で、前代田町は現在の南町三丁目、市之坪町は現在の南町四丁目と境界だね

ボク：当時の前代田町と市之坪町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん：前代田では明治34年に県立農事試験場が岩神から移転されたが、昭和23年にその跡地に県立ろう学校が設立されたんだよ。また、大正元年にガス会社が建ち、そのタンクは町内の目標になったんだよ。今はもうタンクはなく、県立ろう学校は他町に移ったし、前橋駅の真南に

あった城南小学校も市之坪に移り、現在は他町に移ったね。その代わり、現在は前橋駅南口による開発で大きく開けているね。市之坪では昭和4年に芳町から前橋商業学校が移転したんだよ。さらに昭和2年に前橋盲学校・桐生盲学校・高崎聾啞(ろうあ)学校を統合し、このまちに県立盲聾(もうあ)学校が設立されたんだよ。現在は県立盲学校になっているね。いずれにしても、両町とも当時は文京地区だったんだね。

ボク：当時はこんなにも多くの教育施設があったんだね。その他に何かあるの？

おじいちゃん：前代田では前橋市民文化会館の北側に代田神社があるよ。境内には淡島神社、八坂神社、雷電神社、猿田彦神社があり、特に淡島神社は女の人の守護神で信仰を高め、製糸が華やかだった大正8、9年頃には千人講もつくられ、祭日には参詣者が後を絶たないほどだったというよ。

ボク：町名に困んだ施設はあるの？

おじいちゃん：市之坪に市之坪公園があるよ。

ボク：昔の町名を使って公園名になっているのはうれしいね。

おじいちゃん：そうだね。

ボク：このまちは色々な教育施設が変動したり、前橋駅南口の開発により表情が変わったりしているんだね。そして由来のある町名が消えてしまったり残念だけど、昔からある神社が残っていたり、昔の町名を使って公園名として残っているので大事にしていきたいね。それにしてもガスタンクはまちの目標物として残しておきたかったなあ。

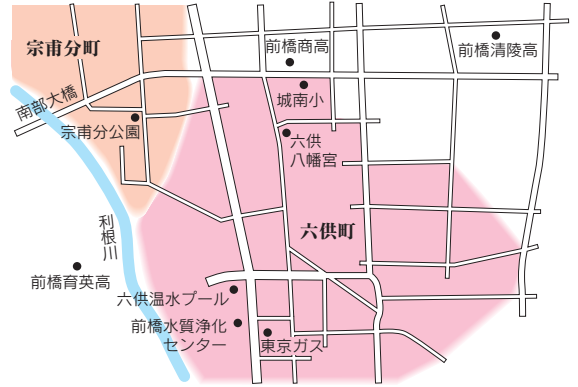
おじいちゃん：そうだね。では、次回は六供町・宗甫分町に行ってみよう。

六供町・宗甫分町

Rokku-machi & Souhobun-machi



旧町名の面影を今に残す、六供八幡宮（上）と宗甫分公園



おじいちゃん…今日は六供町と宗甫分町に行ってみよう。

ボ **ク**…なんて読むの？

おじいちゃん…「ろつくまち、そつほぶんまち」と呼ぶんだよ。

ボ **ク**…いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん…江戸期から明治22年は六供村、宗甫分村、明治22年から昭和26年は六供、宗甫分という大字名、特に六供は明治34年から前橋市の大字名、宗甫分は明治25年から前橋市の大字名、そして六供は昭和26年から現在の前橋市の町名六供町として残っていて、宗甫分は昭和26年から昭和42年は宗甫分町と言っていたよ。

ボ **ク**…どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん…六供は源義経が奥州へ落ち延びた際6人の供をこの地に残したともい、または木幡城主がこの地に足をとどめ、6カ寺を建て六句村といったのが地名のはじまりといわれているよ。宗甫分は宗甫という人が持っていた土地ではないか、そして、おそらく上杉と武田が厩橋城で争奪戦をしたころの、どちらかの武将ではなかったかといわれているよ。

ボ **ク**…このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん…宗甫分は先日訪ねた紅雲町の南側一帯、六供はその南側一帯の界限だね。

ボ **ク**…当時の六供町と宗甫分町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん…六供町も宗甫分町もその昔、高崎方面から利根川を渡る古道である「あずま道」に沿った村落で、まえばしにとつて古くからの交通の要地として栄えたようだ。特に宗甫分では江戸期、前橋領内を利根川に沿って渡船地点に設けられた関所（その後番所）が設置され、兩岸を船で結ぶ重要な要地として知られていたんだ。その後、明治元年に関所が廃されると交通量の増大に伴って、地元有志で、いつまでも安全であるよ

ボ **ク**…ここは交通の重要な土地だったんだね。また、赤煉瓦の前橋刑務所は一際目立つ存在で良いね。ところで神社仏閣はあるの？

おじいちゃん…六供には源氏の守護神といわれる八幡様があり、境内には八坂社、神明宮、稲荷社が祀られているよ。そして、その南には寿延寺があるよ。平安初期先日訪れた前代田に創建され、慶長年中厩橋城の南、現在の中央病院附近に移され、さらに明治11年現在地に移転したんだ。宗甫分には利根川の水害に対する守護神である水神様があり、水波能女命が祀られているよ。昔の利根川はがけ崩れにあいつつ東進し、今の河川中ほどにあつた水神様も現在地に至り明治21年に社殿が再建されたんだ。

ボ **ク**…町名に因んだ施設はあるの？

おじいちゃん…先日訪れた市之坪と同じように宗甫分公園があるよ。

ボ **ク**…まちは様変わりしたけど、昔からある町名が残っていたり神社仏閣はあるし昔の町名を使った公園があるからうれしいね。

おじいちゃん…そうだね。では、次回は諏訪町に行ってみよう。



「諏訪」の名を今に残す「諏訪神社」(上)と「諏訪橋」

諏訪町

Suwa-machi



おじいちゃん..今日は諏訪町に行ってみよう。

ボ..なんて読むの？

おじいちゃん..「すわまち」と呼ぶんだよ。

ボ..いつからそういう町名になったの？

おじいちゃん..江戸期から昭和40年の町名で、江戸期は前橋城下町人町、明治22年前橋町、明治25年前橋市の町名だったんだよ。また、このまちの裏には江戸期から明治7年まで諏訪町裏という町名があつて、前橋城下武家地の一つだったんだよ。

ボ..長い間の町名だったんだね。どうしてそういう町名になったの？

おじいちゃん..まちの中にある諏訪神社によるものと思われよ。

ボ..この神社は昔からあるの？

おじいちゃん..先日訪ねた連雀町にある前橋八幡宮の場所は、以前は古墳塚で、付近は諏訪の森と呼ばれる杉山の木立があり、諏訪神社が祀られてあつただけど、この神社を前橋城の鬼門の押さえとして、このまちに移したんだよ。まちの人たちはお諏訪様と呼んでいるよ。

ボ..このまちはどこになるのかなあ。

おじいちゃん..広瀬川左岸にあり、対岸の立川町から続く立川町通りの東へ行く道を挟んだ南北界隈だね。

ボ..当時の諏訪町の様子を見てみたいよ。

おじいちゃん..江戸期は職人が多く住み、鍛冶屋、畳刺、大工、桶師、板割、屋根萱葺、長板割がいたそうだよ。特に鍛冶職人の比率が高いことは注目される。また、この辺りはかつて利根川が流れていたために水に恵まれていたようで、明治期には、製糸家や多く糸のまちを代表する製糸所が幾つもあつただよ。

ボ..何か伝記のようなものはあるの？

おじいちゃん..昔、一人のみすぼらしい旅僧が、このまちを通りがかり、急にノドがかわき、両側の

家並みの裏にある桃の木が目に入り、桃を恵んでくださいと言った。最初の家からは断られ、次の家の主人からは、快く頂き、お礼を言つて立ち去つたそうさ。あくる日から、断つた側の桃はや二桃ばかり、もう一方の側はおいしい桃ができるようになった。このみすぼらしい旅の僧こそ弘法大師さんでした、という話があるよ。

ボ..そういう話があつたんだあ。その後、何かあつたの？

おじいちゃん..実は80年ほど前まで徳川三代将軍の頃から連綿と続いている町内きつての旧家である杉沢家の大屋敷に1町ばかりの桃畑があり、たいへんおいしい桃であつたそうだよ。地質が適していて、水質が良く、その結果果実の育ちが良かったよ。弘法大師さんのおかげかもしれないね。

ボ..ボクもそう思うよ。そして昔は桃のまち？

おじいちゃん..68番地に馬市場があつたんだよ。350坪ほどの広さで明治31年3月まで開かれ、364頭も扱つたというよ。また、56番地に桑市場もあり、毎年5月から6月に開かれていたよ。ちなみに馬市場のあつたところには大胡行きの乗合馬車の発着所があつたんだよ。

ボ..町名に因んだ施設はあるの？

おじいちゃん..昭和4年に出来た広瀬川に架かる諏訪橋があるよ。また、今でも、まちの人たちは立川町通りに続く道を諏訪町通りと呼んでいるね。さらに諏訪湯という銭湯が以前まであつたね。

ボ..諏訪神社や諏訪橋が残っているからうれしいね。今は宅地化されているから難しいけど、桃畑が復活されるといいなあ。それにしても諏訪湯に入りたかつたなあ。

おじいちゃん..そうだね。では、次回は一毛町に行ってみよう。

31 - 旧町名への旅